

利用者アンケート調査結果の概要

1 調査内容

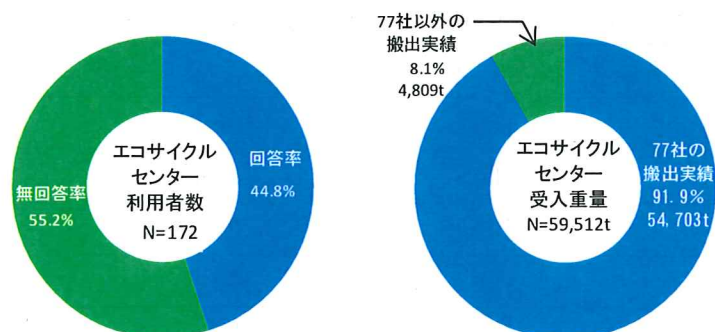
エコサイクルセンターを利用している事業者の意向や考え方を把握することを目的にアンケート調査（以下、「利用者アンケート」という。）を実施した。

利用者アンケートの内容は、表 1-1 に示すとおりであり、エコサイクルセンター利用者 172 社を対象とし、77 社（約 45%）から回答を得た。回答があった 77 社のエコサイクルセンターへの搬出量は、埋立て実績（平成 23 年 10 月～平成 28 年 3 月）の約 92% を占めている。

なお、今回は第 2 回委員会の検討資料として、「問 1：産業廃棄物の排出量と今後の見込量」、「問 2：施設の延命化に向けた要望及び協力できる取組」、「問 4：管理型産業廃棄物最終処分場の必要性」について取りまとめた結果を報告するものとし、その他の結果については、第 3 回委員会で報告を行う予定である。

表 1-1 利用者アンケートの内容

項目	内容
調査対象	エコサイクルセンター利用者：172 社
調査項目	問 1：産業廃棄物の排出量と今後の見込量 問 2：施設の延命化に向けた要望及び協力できる取組 問 3：処理料金の妥当性 問 4：管理型産業廃棄物最終処分場の必要性 及び望ましい整備運営主体 問 5：その他エコサイクルセンターへの意見・要望
調査時期	2016 年 7 月 1 日～7 月 22 日
回答数	77 社（回答率：45%）図 1-1 参照



※54,703t：回答 77 社のエコサイクルセンターへの搬出実績（H23.10～H28.3）

※59,512t：燃え殻（一般）を除いたエコサイクルセンターの受入実績（H23.10～H28.3）

図 1-1 アンケート回答状況

2 産業廃棄物の排出量と今後の見込量等

2.1 今後の見込量

利用者アンケートにおいては、平成 27 年度の産業廃棄物の排出量を基準とし、平成 32 年度、平成 37 年度、平成 42 年度における産業廃棄物排出量の見込量を得ている。その結果は、表 2-1 (1) に示すとおりであり、平成 27 年度を 100 とした場合の増減率を算出した結果は、表 2-1 (2) に示すとおりである。

燃え殻、ばいじん、鉱さい、廃石綿等、建設混合廃棄物については増加傾向、汚泥については減少傾向、廃石膏ボードはほぼ横ばいで推移すると見込まれる。

なお、アンケート調査ではエコサイクルセンター利用者における産業廃棄物の排出量として回答を得ているため、エコサイクルセンターの受入実績値とは一致しない。

表 2-1 (1) 利用者の今後の見込量 (重量)

[t/年]

	平成 27 年度	平成 32 年度	平成 37 年度	平成 42 年度
燃え殻	2,777	2,948	2,943	2,953
ばいじん	340	401	401	401
汚泥	1,314	1,084	1,084	1,084
鉱さい	4,522	5,083	5,083	5,103
廃石綿等	15	18	20	22
廃石膏ボード	4,272	4,303	4,259	4,261
建設混合廃棄物	1,071	1,161	1,190	1,224
合計	14,311	14,998	14,980	15,048

表 2-1 (2) 利用者の今後の見込量 (増減率)

	平成 27 年度	平成 32 年度	平成 37 年度	平成 42 年度
燃え殻	100	106	106	106
ばいじん	100	118	118	118
汚泥	100	82	82	82
鉱さい	100	112	112	113
廃石綿等	100	120	133	147
廃石膏ボード	100	101	100	100
建設混合廃棄物	100	108	111	114
合計	100	105	105	105

2.2 今後の見込量の主な増減理由

今後の見込量の増減理由は表 2-2 に示すとおりである。

受入品目の種類に関らず排出量の見込を横ばいで推移すると回答した事業者が多くなっている。その理由としては、「受注状況で変化するが事業規模の変更が無く同程度で推移するものと仮定したため。」という回答を得た。

表 2-1 に示したように今後の見込量として燃え殻、ばいじん、鉱さい、廃石綿等、建設混合廃棄物については増加傾向、汚泥については減少傾向となっているが、いずれの品目においても大口排出事業者の回答が反映されたと考えられる。

増加理由としては、燃え殻は「施設改修に伴い焼却炉の増設を検討しているため。」、鉱さいは「現施設の能力を最大限発揮させる計画であるため。」、廃石綿等、建設混合廃棄物は「廃石綿等を含む物件の解体工事が増加するため。」という回答が得られており、事業拡大に伴う増加が主な理由となっている。

なお、今後の見込量（増減率）において廃石綿等と廃石膏ボードの傾向が異なっている。廃石綿等については、大口排出事業者が存在しないことから、個々の事業者の意向が強く反映されやすいが、廃石膏ボードについては大口排出事業者が存在していることから、大口排出事業者の回答の影響が大きく反映される。その結果、廃石膏ボードの見込量については大口排出事業者の回答に影響され、排出量の見込が横ばいになったと考えられる。

表 2-2 今後の見込量の増減の主な理由

受入品目	増減の有無	主な理由
燃え殻 (31 社)	増加 (5 社)	施設の改修に伴い焼却炉の増設を検討しているため。
	減少 (2 社)	-
	横ばい (24 社)	受注状況で変化するが現時点では事業規模の変更が無く同程度で推移するものと仮定したため。
ばいじん (3 社)	増加 (1 社)	-
	減少 (0 社)	-
	横ばい (2 社)	-
汚泥 (10 社)	増加 (2 社)	-
	減少 (1 社)	-
	横ばい (7 社)	受注状況で変化するが現時点では事業規模の変更が無く同程度で推移するものと仮定したため。
鉱さい (7 社)	増加 (1 社)	施設の能力を最大限発揮させる計画であるため。
	減少 (1 社)	-
	横ばい (5 社)	受注状況で変化するが現時点では事業規模の変更が無く同程度で推移するものと仮定したため。
廃石綿等 (9 社)	増加 (1 社)	廃石綿等を含む物件の解体工事が増加するため。
	減少 (1 社)	廃石綿等の取扱を削減する見込である。
	横ばい (7 社)	受注状況で変化するが現時点では事業規模の変更が無く同程度で推移するものと仮定したため。
廃石膏ボード (28 社)	増加 (2 社)	廃石綿等を含む物件の解体工事が増加するため。
	減少 (2 社)	事業規模を削減する計画である。
	横ばい (24 社)	受注状況で変化するが現時点では事業規模の変更が無く同程度で推移するものと仮定したため。
建設混合廃棄物 (19 社)	増加 (5 社)	廃石綿等を含む物件の解体工事が増加するため。
	減少 (0 社)	-
	横ばい (14 社)	受注状況で変化するが現時点では事業規模の変更が無く同程度で推移するものと仮定したため。

※増加とは排出量が 10t 以上増加かつ増加率が 10%以上の事業所、減少とは排出量が 10t 以上減少かつ増加率が-10%以下の事業所、横ばいとはそれ以外を示す。

3 施設の延命化に向けた要望及び協力の可否

3.1 施設の延命化に向けた要望

エコサイクルセンターの延命化に向けて、県又は公益財団法人エコサイクル高知への要望は、表 3-1 に示すとおりである。

エコサイクルセンターの増設、新たな管理型最終処分場の確保が 7 件と回答が最も多くなり、次いで受入品目のリサイクルの推進が 5 件と多くなった。リサイクルする受入品目としては、廃石膏ボード、燃え殻・ばいじんに関する要望が得られた。その他の回答としては、中間処理施設による減量化等が挙げられた。

表 3-1 施設の延命化に向けた要望

要望の内容	回答数	備考
エコサイクルセンターの増設	7 件	
新たな管理型最終処分場の確保	7 件	
受入品目のリサイクルの推進	5 件	廃石膏ボード、燃え殻・ばいじん
廃棄物の排出抑制等の情報発信	2 件	
その他	5 件	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の持ち込み量を出来るだけ正確に把握させ、今後の計画に反映させる。 ・エコサイクルセンター以外に搬出させる。 ・エコサイクルセンターの搬入物に対する検査を厳しくする。 ・民間の中間処理施設の建設を促進する。 ・中間処理施設の併設により減量化する。

3.2 施設の延命化に向けて協力できる取組

エコサイクルセンターの延命化に向けて協力できる取組についての結果は表 3-2 に示すとおりである。

リサイクルの推進が 10 件と最も多くなり、次いで排出抑制の推進、分別の徹底が 8 件と多くなった。その他としては「排出量の平均化」、「搬出する管理型最終処分場を分散する」等が挙げられた。

表 3-2 施設の延命化に向けて協力できる取組

要望の内容	回答数	備考
リサイクルの推進	10 件	
排出抑制の推進	8 件	
分別の徹底	8 件	
その他	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排出量の平均化 ・ 搬出する管理型最終処分場を分散する ・ なるべく破碎し嵩を減らす ・ 埋立計画の効率化

4 管理型最終処分場の必要性と理由

4.1 管理型最終処分場の必要性

高知県内への管理型最終処分場の必要性の結果は、図 4-1 及び表 4-1 に示すとおりである。

高知県内に管理型最終処分場が必要であるといった回答が 97.3%と大半を占め、不要であるといった回答が 1.4%、その他が 1.4%となった。

エコサイクルセンターの利用者において、高知県内への管理型最終処分場の必要性は非常に高いことが確認された。

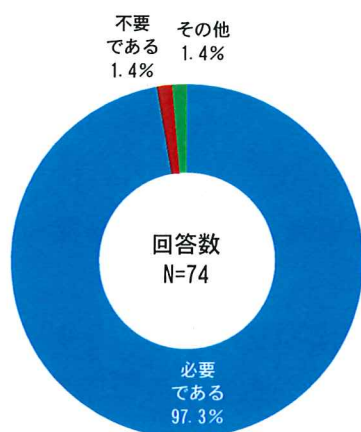


表 4-1 管理型最終処分場の必要性

	回答数	% (無回答除く)
必要である	72	97.3
不要である	1	1.4
その他	1	1.4
小計	74	100
無回答	3	-
合計	77	-

※端数処理の関係から合計が合わない場合がある。

図 4-1 管理型最終処分場の必要性

4.2 管理型最終処分場が必要又は不要である理由

高知県内に管理型最終処分場が必要又は不要である理由を複数回答により得た。その結果は、表 4-2 及び表 4-3 に示すとおりである。

管理型最終処分場が必要である理由としては、「県内の廃棄物は県内で処分すべきである」が 75.0%と最も多く、次いで、「近くに管理型最終処分場があった方がよい」が 69.4%、「不法投棄の減少につながる」が 40.3%と多くなった。

また、不要である理由としては、「県外で利用できる管理型最終処分場があるから」、「利用する頻度が著しく少ない」という回答が得られた。

なお、その他の理由としては、「リサイクルできる方法の検討」という回答が得られた。

表 4-2 管理型最終処分場が必要な理由 (N=72)

項目	回答数 (複数回答あり)	% (無回答除く)
県内の廃棄物は県内で処分すべきである	54	75.0
近くに管理型最終処分場があった方がよい	50	69.4
不法投棄の減少につながる	29	40.3
県民の環境意識が高まる	11	15.3
安定型 5 品目以外の廃棄物が増えている	9	12.5
県内の環境ビジネスの活性化が見込める	8	11.1
その他 (災害が起きた場合に県内で対応できなくなる)	1	1.4

表 4-3 管理型最終処分場が不要な理由 (N=1)

項目	回答数 (複数回答あり)	% (無回答除く)
県外で利用できる管理型最終処分場があるから	1	100.0
利用する頻度が著しく少ない	1	100.0



平成 28 年 7 月 1 日

エコサイクルセンター利用者 様

高知県林業振興・環境部
環境対策課長
(公印省略)

エコサイクルセンター利用者アンケート調査へのお願い

平素は、本県の廃棄物行政につきましてご理解、ご協力をいただきありがとうございます。さて、下記に記載している目的のため、アンケート調査を実施させていただきたいと存じます。お忙しいところ大変恐縮ですが、本アンケート調査にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

記

1 アンケート調査の目的 (別添のカラー資料をご参照ください)

エコサイクルセンターでは、当初計画の倍のスピードで埋め立てが進んでおり、今後も同じペースで埋め立てが進めば、平成 33 年度末 (平成 34 年 3 月末) には、残余容量がゼロになることが想定される状況です。

このため、県では「今後の管理型産業廃棄物最終処分のあり方」を検討のうえ、基本構想として取りまとめることとし、先般、有識者による検討委員会を立ち上げたところです。

この検討にあたり、日ごろエコサイクルセンターをご利用されている各事業者様の意向や考え方をお聞かせいただき、基本構想に反映させるために、アンケート調査をお願いするものです。

2 アンケート調査票の回答先

アンケート調査の集計、分析は、県が委託している復建調査設計株式会社 (広島市) が行います。お手数ですが、同封している封筒で 7 月 8 日 (金) までに返送していただけますよう、よろしく願いいたします。

3 その他

返送いただいたアンケート調査票は、集計、分析の後、県で適切に管理いたします。

4 問合せ先

高知県林業振興・環境部 環境対策課 元吉、^{むねつぐ}宗次

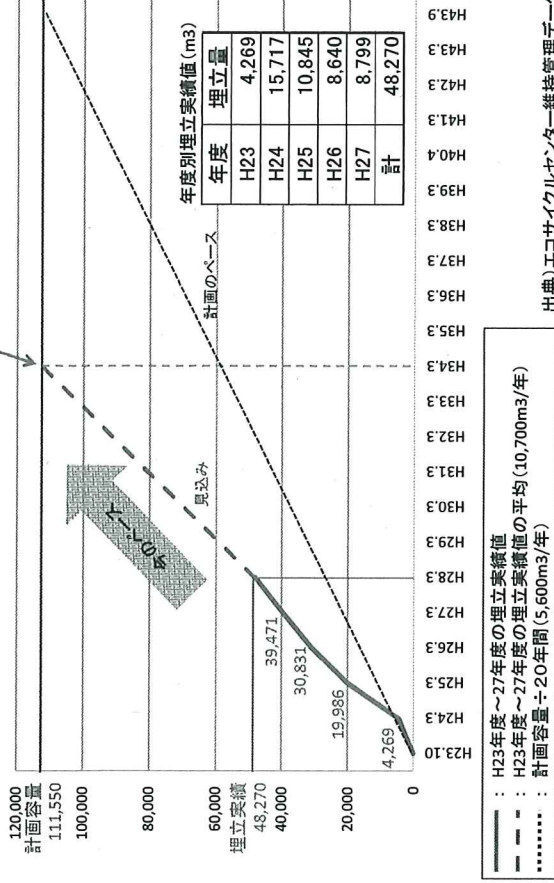
Tel : 088-821-4522



エコサイクルセンターの埋立実績(埋立容量:m3)

計画の倍のペースで埋立が進行

⇒ 今のペースで進めば 平成33年度末で残余容量がゼロ になる見込み



エコサイクルセンターの埋立実績(埋立重量:t)

受入品目毎の、埋立実績(重量)の表です。
計画値は、1年当たりの受入計画重量です。

[単位:t]

受入品目	計画値	実績値(受入重量)					合計
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
燃え殻	2,200	1,039	3,050	3,028	3,048	3,136	13,300
ばいじん		40	99	326	328	418	1,210
汚泥(無機性)	340	87	3	596	398	30	1,115
鉱さい	2,460	6,453	10,485	4,643	4,766	4,801	31,148
廃石膏等	40	27	90	90	44	44	296
廃石膏ボード	590	842	2,408	2,679	3,219	3,112	12,259
建設混合廃棄物	14	82	60	6	6	21	183
燃え殻(一般)	710	0	2,325	2,218	569	651	5,763
合計	6,340	8,502	18,543	13,640	12,378	12,212	65,275

出典)エコサイクルセンター-維持管理データ

【計画値と実績値の比較】

- ・燃え殻・ばいじん、鉱さい、廃石膏ボードは、計画値より大きくなっていきます
- ・鉱さいは、平成23、24年度において特に計画値より大きくなっていきます

基本構想の検討は有識者による委員会で行います。

今回のアンケート調査は、皆様の意向や考え方をお聞かせいただき、基本構想に反映させるために行うものです。ご協力をお願いいたします。

アンケート調査結果

集計・分析

有識者委員会での基本構想検討項目

- ①管理型産業廃棄物最終処分場の必要性の検討
- ②施設の整備手法の方向性の検討
- ③施設規模等の検討
- ④エコサイクルセンターの延命化策の検討

このため、高知県における今後の管理型産業廃棄物最終処分のあり方を
基本構想(マスタープラン) として年内に取りまとめます。

本説明資料(エコサイクルセンターの現状及び基本構想策定の背景の説明資料)は、1ページ毎にカラー印刷して配布した。

エコサイクルセンター利用者アンケート調査票

事業所名				
住所 連絡先	〒			
	TEL		FAX	
ご回答者の情報	所属 部署		氏名	
	E-mail			

問1 産業廃棄物の排出量について、お答えください。

貴事業所から排出される産業廃棄物について、現在の排出品目毎の排出量(平成27年度実績)と、将来の見込みをお答えください。

産業廃棄物品目	平成27年度 排出量 (t/年)	将来の排出見込量 (t/年)		
		5年後 (平成32年度)	10年後 (平成37年度)	15年後 (平成42年度)
【回答例】 燃え殻	80	82	82	85
燃え殻				
ばいじん				
汚泥				
鉱さい				
廃石綿等				
廃石膏ボード				
建設混合廃棄物				
その他 ()				
その他 ()				
その他 ()				

※可能な範囲で、回答いただいた将来の排出見込量算定にあたっての考え方をご記入ください。
(考え方)

問2 エコサイクルセンターは、計画以上に埋立が進んでおり、平成33年度末には残余容量がゼロになる可能性が生じています。このため、以下の問いにお答えください。

2-1

エコサイクルセンターを少しでも長く使用するために、県又は公益財団法人エコサイクル高知に要望することはありますか。

(要望)

⇒ ご回答後は2-2へお進みください。

2-2

エコサイクルセンターを少しでも長く使用するために、貴事業者でご協力いただけることはありますか。

(協力いただけること)

⇒ ご回答後は問3へお進みください。

問3 現在のエコサイクルセンターの処理料金は、下記表のとおりとなっています。この、現在の処理料金についてお答えください。

現在の処理料金（消費税込み、円/t）

燃え殻	16,200	鉾さい	9,720	建設混合廃棄物	21,600
ばいじん	16,200	廃石綿等	32,400		
無機性汚泥（建設汚泥除く）	27,000	廃石膏ボード	12,960		

現在の処理料金について、どのように感じていますか。
貴事業所で問1の排出量が一番多い品目の料金について、次のいずれかに○をつけて、理由と合わせてお答えください。

①妥当

②高い

③安い

(上記を選んだ理由をお答えください)

⇒ ご回答後は問4へお進みください。

問4 高知県内での管理型産業廃棄物最終処分場の必要性について、どのようにお考えになるか
お答えください。

4-1 高知県内に管理型産業廃棄物最終処分場が必要かどうか、次のいずれかに○をつけてお答えください。

①必要である ⇒ 4-2へお進みください

②不要である ⇒ 4-3へお進みください

③その他 ⇒ 4-4へお進みください

4-2 4-1で「必要である」とお答え頂いた方にお聞きます。
高知県内に管理型産業廃棄物最終処分場が必要な理由について、次のいずれかに○をつけてお答えください。(複数回答可)

①近くに管理型産業廃棄物最終処分場があった方がよい

②県内の廃棄物は県内で処分すべきである

③安定型5品目※以外の廃棄物が増えている ※安定型5品目
廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

④不法投棄の減少につながる

⑤県民の環境意識が高まる

⑥県内の環境ビジネスの活性化が見込める

⑦その他 ()

⇒ ご回答後は4-5へお進みください。

4-3 4-1で「不要である」とお答え頂いた方にお聞きます。
高知県内に管理型産業廃棄物最終処分場が不要な理由について、次のいずれかに○をつけてお答えください。(複数回答可)

①県外に利用できる管理型産業廃棄物最終処分場があるから

④安全性に不安がある

②環境への影響が懸念される

⑤その他 ()

③利用する頻度が著しく少ない

⇒ ご回答後は問5へお進みください。

4-4 4-1で「その他」とお答え頂いた方にお聞きます。
その他を選んだ理由をお答えください。

(理由)

⇒ ご回答後は問5へお進みください。

4-5

今後、高知県内に新たな管理型産業廃棄物最終処分場を整備する場合、望ましい「**整備主体**」について、次のいずれかに○をつけてお答えください。

- ①民間事業者による整備が可能であれば、地方公共団体の関与は必要ない
- ②何らかの形（例：第三セクター）で、地方公共団体が関与してほしい
- ③地方公共団体が自ら整備してほしい
- ④その他

⇒ ご回答後は4-6へお進みください。

4-6

4-5で「**望ましい整備主体**」を選んだ理由についてお答えください。

(理由)

⇒ ご回答後は4-7へお進みください。

4-7

今後、高知県内に新たな管理型産業廃棄物最終処分場を整備する場合、望ましい「**運営主体**」について、次のいずれかに○をつけてお答えください。

- ①民間事業者による運営が可能であれば、地方公共団体の関与は必要ない
- ②第三セクターによる運営がよい（エコサイクルセンターと同様）
- ③地方公共団体が自ら運営してほしい
- ④その他

⇒ ご回答後は4-8へお進みください。

4-8

4-7で「**望ましい運営主体**」を選んだ理由についてお答えください。

(理由)

⇒ ご回答後は4-9へお進みください。

4-9

今後、高知県内に新たな管理型産業廃棄物最終処分場を整備する場合、併設していれば便利であると思われる施設があればお答えください。

併設施設の種類	
理由	

⇒ ご回答後は問5へお進みください。

問5 エコサイクルセンターへのご意見・要望等がありましたら、どんなことでも結構ですのでお答えください。

--

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

